

公募ワークショップ

## 公募ワークショップ10

### 上級医療情報技師が輝く未来～上級医療情報技師15周年までのアクションプラン～

2019年11月24日(日) 10:40～12:10 |会場(国際展示場 展示ホール8・特設会場1)

#### [4-I-2] 上級医療情報技師が輝く未来～上級医療情報技師15周年までのアクションプラン～

成清 哲也<sup>1</sup>、櫃石 秀信<sup>2</sup>、魚澤 正克<sup>3</sup>、佐々木 啓充<sup>4</sup>、橋本 智広<sup>5</sup>、長原 三輝雄<sup>6</sup>、五味 悠一郎<sup>7</sup>（1. 広島国際大学、2. 松波総合病院、3. 地域医療機能推進機構(JCHO)大阪病院、4. 市立豊中病院、5. 大津赤十字病院、6. 北陸大学、7. 日本大学理工学部）

キーワード：Healthcare Information Technologists, HIT, Senior, Action Plan, Anniversary

医療情報技師育成部会では上級医療情報技師15周年に向け、上級医療情報技師402名に対して2019年2月22日から28日にアンケートを実施し、上級医療情報技師70名によるワークショップを2019年3月2日と3日に開催した。2019年2月のアンケートは上級医療情報技師の活躍を支援する目的で行い、一週間という短い実施期間での依頼にも関わらず、202名（回答率50.2%）に回答いただいた。

2019年3月のワークショップは、医療情報技師育成部会の活動の方向性を見極めるとともに、上級医療情報技師と医療情報技師育成事業のさらなる協力体制に繋いでいくことを目的として行い、自己研鑽と人材育成および次世代に向けた上級医療情報技師のあり方について検討した。具体的には、自己研鑽を「上級を極める」と「自分を磨く」に、人材育成を「上級医療情報技師の仲間を増やす」と「医療情報技師を増やす」に分け、4グループで検討を行った。検討結果は、「上級を極めるとは、『足元を固めること』である。足元を固めるとは、仲間と共に医療情報を開拓することである。」「自己研鑽とは、挑戦のための歯磨きである」「上級医療情報技師の仲間を増やすとは『きんきらきんセットで、高いステータスを見せつける』ということである。」「医療情報技師を増やすとは『宝の発掘をすること』である」の4つのスローガンとして纏められた。併せて、各スローガンにおける課題と対策が挙げられた。

本ワークショップでは、2019年2月に実施した上級医療情報技師のアンケート結果および2019年3月に開催したワークショップの成果を参加者で共有した上で、上級医療情報技師15周年に向けて医療情報技師育成部会と上級医療情報技師が取り組むべき内容を整理する。なお、本ワークショップは上級医療情報技師をテーマとしているが、参加資格は問わない。上級医療情報技師を志している方の参加も歓迎する。

## 上級医療情報技師が輝く未来

### ～上級医療情報技師 15 周年までのアクションプラン～

五味 悠一郎<sup>\*1</sup>、成清 哲也<sup>\*2</sup>、櫃石 秀信<sup>\*3</sup>、魚澤 正克<sup>\*4</sup>、佐々木 啓充<sup>\*5</sup>、橋本 智広<sup>\*6</sup>、長原 三輝雄<sup>\*7</sup>

\*1 日本大学理工学部、\*2 広島国際大学、\*3 松波総合病院、\*4 地域医療機能推進機構(JCHO)大阪病院、  
\*5 市立豊中病院、\*6 大津赤十字病院、\*7 北陸大学

## A Future in which Senior Healthcare Information Technologists Shine - Action Plan Leading Up to the 15th Anniversary of the Senior Healthcare Information Technologist Certification -

Yuichiro Gomi<sup>\*1</sup>, Tetsuya Narikiyo<sup>\*2</sup>, Hidenobu Hitsushishi<sup>\*3</sup>, Masakatsu Uozawa<sup>\*4</sup>, Hiromitsu Sasaki<sup>\*5</sup>,  
Tomohiro Hashimoto<sup>\*6</sup>, Mikio Nagahara<sup>\*7</sup>

\*1 College of Science and Technology, Nihon University, \*2 Hiroshima International University,  
\*3 Matsunami General Hospital, \*4 Japan Community Healthcare Organization (JCHO) Osaka Hospital,  
\*5 Toyonaka Municipal Hospital, \*6 Otsu Red Cross Hospital, \*7 Hokuriku University

As part of the action plan leading up to the 15th anniversary of the Senior Healthcare Information Technologist certification, the Japan Association for Medical Informatics Healthcare Information Technologist Fostering Taskforce (JHIFT) conducted a survey of 402 Senior Healthcare Information Technologists from February 22 to 28, 2019. A workshop was also held from March 2 to 3, 2019, with 70 Senior Healthcare Information Technologists participating.

The February 2019 survey was conducted with the purpose of supporting the activities of Senior Healthcare Information Technologists. Even though respondents were surveyed during a short period of a week, 202 Senior Healthcare Information Technologists (response rate of 50.2%) replied.

The workshop in March was held for the purpose of determining the direction of JHIFT, along with connecting Senior Healthcare Information Technologists to a cooperative system for further nurturing Healthcare Information Technologists. Participants examined the topics of career self-improvement and human resources development for forming next-generation Senior Healthcare Information Technologists.

In the upcoming workshop, results of the February 2019 survey of Senior Healthcare Information Technologists and the March 2019 workshop will be shared among the participants. Based on the results, JHIFT and Senior Healthcare Information Technologists will coordinate the content of the effort toward the 15th anniversary of the Senior Healthcare Information Technologist certification.

Keywords: Healthcare Information Technologists, HIT, Senior, Action Plan, Anniversary

### 1. 背景

医療情報技師が創設されてから17年、上級医療情報技師が創設されてから13年が経過し、医療情報技師の認定者数は累計21,882名(平成30年度)、上級医療情報技師の認定者数は累計402名(平成30年度)となった<sup>1)</sup>。この期間、医療機関にて数多くの医療情報システムが導入および運用され、医療情報技師や上級医療情報技師が活躍する場も増えてきた。

しかし、日本国内には病院が8,318施設(令和元年6月末)あることを考慮すると認定者数は未だ不足している<sup>2)</sup>。「保健医療福祉の質と安全の向上のために、医療の特質をふまえ、最適な情報処理技術を用い、医療情報を安全かつ適切に管理・活用・提供することができる保健医療福祉分野の専門職」と定義される医療情報技師や、「保健医療福祉の質と安全の向上のために、幅広い知識と豊かな経験を背景として、全体最適の観点から保健医療福祉分野の情報化と医療情報の利活用を総括的に推進できる医療情報技師」と定義される上級医療情報技師が、その知識や能力を十分に発揮できる環境になっていないという意見もある<sup>1)3)</sup>。

こうした現状を踏まえ、医療情報技師が取り組むべき内容については医療情報学連合大会等でこれまでも議論され

てきたが、上級医療情報技師が取り組むべき内容については、あまり議論されてこなかった。ボトムアップだけでなく、トップダウンでも各種取り組みを行うことによって、上級を含めた医療情報技師を取り巻く環境がより良くなると考えられる。

### 2. 目的

本ワークショップでは、2019年2月に実施した上級医療情報技師のアンケート結果および2019年3月に開催したワークショップの成果を参加者で共有した上で、上級医療情報技師15周年に向けて日本医療情報学会医療情報技師育成部会(以下、育成部会)と上級医療情報技師が取り組むべき内容を整理する。

なお、本ワークショップは上級医療情報技師をテーマとしているが、参加資格は問わない。上級医療情報技師を志している方の参加も歓迎する。

### 3. 上級医療情報技師アンケート(2019年2月)

2019年2月のアンケートは、育成部会が上級医療情報技師の活躍を支援する目的で、上級医療情報技師認定者に対して実施した。実施期間は2019年2月22日から28日で、上級医療情報技師の有資格者402名で構成しているメーリングリストで依頼し、Webフォームに回答を入力する形式で実施

したところ、202名(50.2%)から回答があった。アンケート結果の概要を以下に示す。<sup>3)</sup>

- 1) 回答者属性
  - 9割が企業と保健医療福祉施設に所属しており、企業と保健医療福祉施設はほぼ同数である。
  - 医療福祉施設は情報システム部門が最も多く(4割弱)、企業は技術系が最も多く(約2割)。
  - 約1/4(48名)が医療資格を有する。
- 2) 組織における位置づけ
  - 約3割に医療情報の専門部署がある。約2割に(上級)医療情報技師のポストあり。
  - 約7割は上司に認知されている。しかし上級を取っても約8強は処遇に変化なし。
- 3) 氏名・所属先のWebサイト公表
  - 約半数が同意のうえでの氏名と所属先の公表に賛成。検索は条件つきを含めて約9割が賛成。
- 4) 取得動機
  - 自身のスキルアップ、自己研鑽、キャリアアップ、上位資格チャレンジが最多。
  - 能力・知識の証明、相手(医療機関・ベンダ)に認めてもらう、組織内・対外的アピールも多い。
- 5) 資格更新の課題
  - 費用面やポイント獲得を課題と感じている。
- 6) 医療情報学会員
  - 上級医療情報技師の半数近くが、すでに学会員である。
  - 非学会員の理由「学会員でなくても特に困らない」「学会費を支払うほどの動機がない」が上位。

本調査より、上級医療情報技師の所属機関は企業と医療機関に半々であり、所属部署が多様なことから、組織間および組織内での橋渡し役を担っていることが示唆された。今後さらに情報技術が大きく進展し社会のニーズが変化の中で、継続的に技師の能力を高め活かせる環境を構築していく必要がある。一方で、技師のニーズ・背景も多様であり、慎重に進める必要があることが示唆された。育成部会と技師会は本調査で判明した結果をふまえ、生涯学習並びに活躍の場の支援のための環境を構築していくことが望まれる。

## 4. 上級医療情報技師ワークショップ 2019

上級医療情報技師ワークショップ 2019は、医療情報技師育成部会の活動の方向性を見極めるとともに、上級医療情報技師と医療情報技師育成事業のさらなる協力体制に繋いでいくことを目的として行い、自己研鑽と人材育成および次世代に向けた上級医療情報技師のあり方について検討した。具体的には、自己研鑽を「上級を極める」と「自分を磨く」に、人材育成を「上級医療情報技師の仲間を増やす」と「医療情報技師を増やす」に分け、4グループで検討を行った。

開催日は2019年3月2日と3日で、上級医療情報技師70名(定員に達したため先着順)が参加した。

### 4.1 自己研鑽:上級を極める

最初に現状把握と課題抽出を行った結果、現状把握として、認知度、活躍の場、自己研鑽、キャリアパス等が挙げられ、課題としては、認知度、役割、キャリアパス、品質、知識、次世代の技術、情報整理、人材育成等が挙げられた。課題の中から

「次世代の技術」をテーマに絞りこみ、再度課題抽出を行った。「国や学会とリンクした医療情報システムの未来像が描けていない」、「学会での発信が少ない」、「他業界で実現できている技術を医療で活かしていない」等様々な意見が出てきた。

「次世代を担うこと」という仮説の元に議論が展開され、現実論に終始しかけたところで、もう少し未来を見据えた意見について展開を試みたが、「足下を見つめなおすのも良いのでは」という意見が出され、最終的には『上級を極めるとは、「足下を固めること」である。』という結論に至った。ちなみに「足下を固める」とは仲間と共に医療情報を開拓することである。

### 4.2 自己研鑽:自分を磨く

上級医療情報技師を目指した理由は様々であり、個人の目指すゴールも職種、立場、役割によって異なっていた。

- 上級医療情報技師は、従来の3C(コミュニケーション、コラボレーション、コーディネーション)に加え、リーダーシップ、マネジメント、問題解決能力が必要とされ、育成部会から「あるべき姿=GIO/SBOs」が示されたが、教科書がなく何を求められているのかわかりにくかった。
- 「あるべき姿=GIO/SBOs」に定義されていることを全て満たす人物はスーパーマンである。

などの意見が出された。「ゴールはあるのか?」との問いについては、ゴールは進行形で、変わっていくものであり、階段を上がることによって見える景色も変わり、ゴールも変わるとした。

現状とあるべき姿とのギャップを埋めるため、あるべき姿=目標に近づくために「自己研鑽」を行う必要がある。そこで、参加者全員が「自己研鑽とは」について意見を出し合い、『自己研鑽とは、「挑戦のための歯磨き」である。』というスローガンにまとめた。ここでいう「歯磨き」とは、「毎日日常的に行うこと(無意識レベル、生活習慣)」を指し、ひいては命を維持することに繋がる、と定義した。

### 4.3 人材育成:上級医療情報技師の仲間を増やす

今回のワークショップは「真面目にふざける」というコンセプトがあり、フリーディスカッションにより上級医療情報技師を目指す上での課題となっていることをあげ、何にフォーカスするべきかを検討した。認知度が低いこと。インセンティブがないこと。交流が少なく上級医療情報技師の露出する機会が少ない。などが挙げられ、その中でインセンティブを示す、簡単にいうと「おトク」であると言えるようにすることと考え、議論を行った。

まず、公的認知を高めること。国家資格にすることやゆるキャラの作成など幅広い意見が出た。また、そもそも上級医療情報技師同士が認知していない状況もあり、互いに協力できる関係を作ること重要であるとの意見もあった。今回のワークショップで、上級医療情報技師が集まり、互いを認知でき議論が交わせ、楽しい時間が過ごせたことが「おトク」とメンバー全員が思ったことから、医療情報技師にこの楽しさを伝えることが仲間を増やすことにつながると思った。さらに、下世話ではあるが、医療情報技師が集まる医療情報学会の場で、セッションへの先行入場やランチョンセミナーの先行予約、上級医療情報技師のラウンジなど、ステータスを見せることで「おトク」と思ってもらえることが取得へのキッカケとなるのではないかと考えた。

上級医療情報技師の認定カードは、ゴールドである。また、バッジは金色である。これらを「きんきんきんセット」とコメントさ

れた方があったことから、『上級医療情報技師の仲間を増やすとは、「きんきらきんセットで高いステータスを見せつけること」である。』と結論づけた。

#### 4.4 人材育成：医療情報技師を増やす

上級医療情報技師は、医療情報技師となる人材を育成することが重要である。一方、医療情報技師の認定試験は、医療情報学会育成部会の統計情報によると、認定者数が横ばい傾向であるとされ、医療情報技師に対する認知度を向上するための取り組みも必要だと考えた。

医療情報技師を知ってもらうキーワードとして、ステップアップ、医療への貢献、異業種間でのコミュニケーション、憧れの存在等が挙げられた。認知度を上げるために育成部会に期待することとしては、技師が講演する場の提供、技師の所在に関する情報の掲載、社会貢献の評価、活動実績の掲載、各種関係省庁(団体)への働きかけ等が挙げられた。

上級医療情報技師がさらに医療情報技師を増やすためにできることを、ひとり一人が考える時期にあるのではないだろうかと考え、出張报告会、広報誌の発行、他病院との相互システム監査、警察・サイバーセキュリティの啓蒙、等の意見が出された。

医療情報技師を増やすためには、上級医療情報技師が限られた人材の中から、医療情報技師としての可能性を秘めた「人材=宝」を発掘する役割を担うことが近道になり得るだろうとの結論から、『医療情報技師を増やすとは、「宝の発掘をすること」である。』というスローガンとした。発掘した人材が各フィールドで活躍し、さらに将来上級医療情報技師へと成長されることを期待したい。

#### 参考文献

- 1) 日本医療情報学会医療情報技師育成部会. 2019.  
[<https://www.jami.jp/jadite/new/> (cited 2019-Aug-31)].
- 2) 厚生労働省. 医療施設動態調査(令和元年6月末概数). 2019.  
[[https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/iryosd/m19/dl/is1906\\_01.pdf](https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/iryosd/m19/dl/is1906_01.pdf) (cited 2019-Aug-31)].
- 3) 日本医療情報学会医療情報技師育成部会. 上級医療情報技師の現状～2019年2月実施 Web アンケート結果報告～. 2019.